

① 人口

C0101 人口規模

C0101_人口総数・増加数

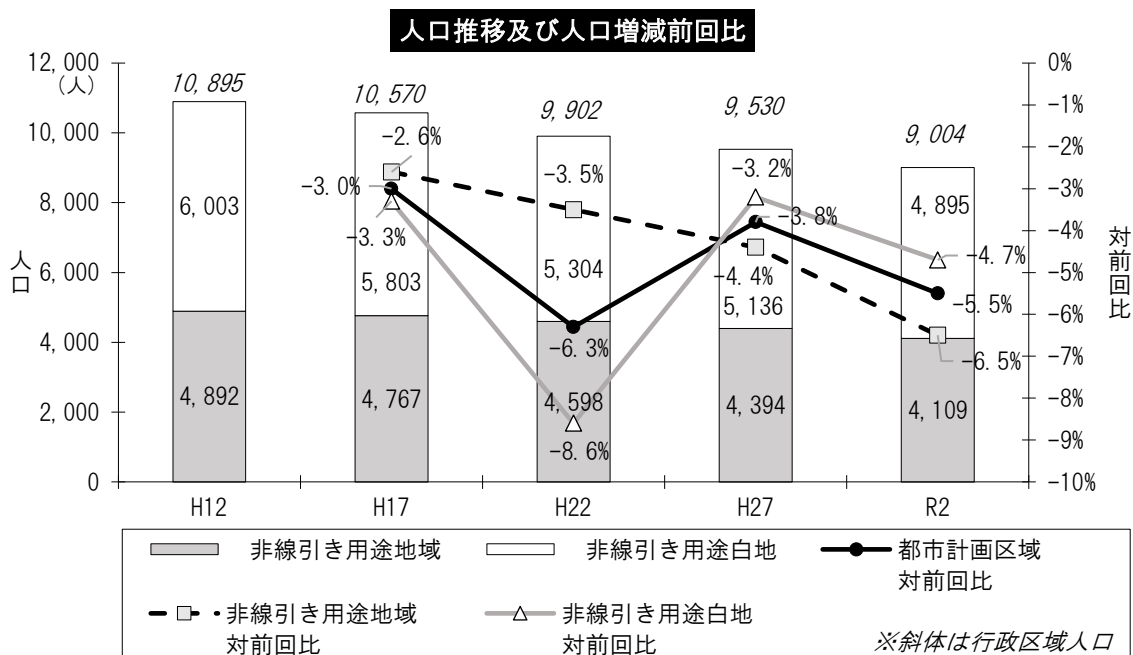
平成 12 年から令和 2 年にかけて、行政区域の人口（都市計画区域の人口と同一）は一貫して減少傾向にあり、20 年間で 1,891 人（17.4%）減少している。各期間の減少率は概ね 3～6%程度で推移しており、総人口が 1 万人を下回った平成 22 年には、平成 17 年から 6.3%減と、最も大きな減少幅を示している。

また、非線引き用途地域および非線引き用途白地においても人口減少が続いているが、非線引き用途地域では、年を追うごとに減少幅が拡大する傾向が見られる。

図表 1. C0101_人口総数・増加数(集計表)

区域区分	H12年	H12年～ H17年の増減		H17年	H17年～ H22年の増減		H22年	H22年～ H27年の増減		H27年	H27年～ R2年の増減		R2年
	人口 人	人口 人	率 %	人口 人	人口 人	率 %	人口 人	人口 人	率 %	人口 人	人口 人	率 %	人口 人
行政区域	10,895	-325	-3.0	10,570	-668	-6.3	9,902	-372	-3.8	9,530	-526	-5.5	9,004
都市計画区域	10,895	-325	-3.0	10,570	-668	-6.3	9,902	-372	-3.8	9,530	-526	-5.5	9,004
非線引き用途地域	4,892	-125	-2.6	4,767	-169	-3.5	4,598	-204	-4.4	4,394	-285	-6.5	4,109
非線引き用途白地	6,003	-200	-3.3	5,803	-499	-8.6	5,304	-168	-3.2	5,136	-241	-4.7	4,895

注) 平成 12・17 年の非線引き用途地域人口は分断された町丁目単位区域の住宅数で案分比を決定し、人口を配分し算定
(平成 12, 17, 22, 27 年、令和 2 年国勢調査をもとに作成)



図表 2. 人口推移及び人口増減(対前回比)

C0101_年齢・性別人口

令和2年の5歳階級別人口を見ると、男女ともに第1次ベビーブームに該当する世代である65～74歳の人口が多く、特に70～74歳で最も多くなっている。一方、0～4歳および20～24歳の年齢層は、男女ともに人口規模が小さい。

平成12年と令和2年を比較すると、平成12年は20～50歳代に厚みがあり、0～14歳も一定規模を保つなど、比較的バランスの取れた人口構成であった。一方、令和2年では59歳以下の各年齢層で人口が減少しており、特に0～14歳の減少が大きく、人口ピラミッドの底が縮小している。これに対し、65歳以上の高齢者層、特に75歳以上の人口が大きく増加し、人口の重心が高齢側へ移行しており、少子高齢化の進行が明確に表れている。

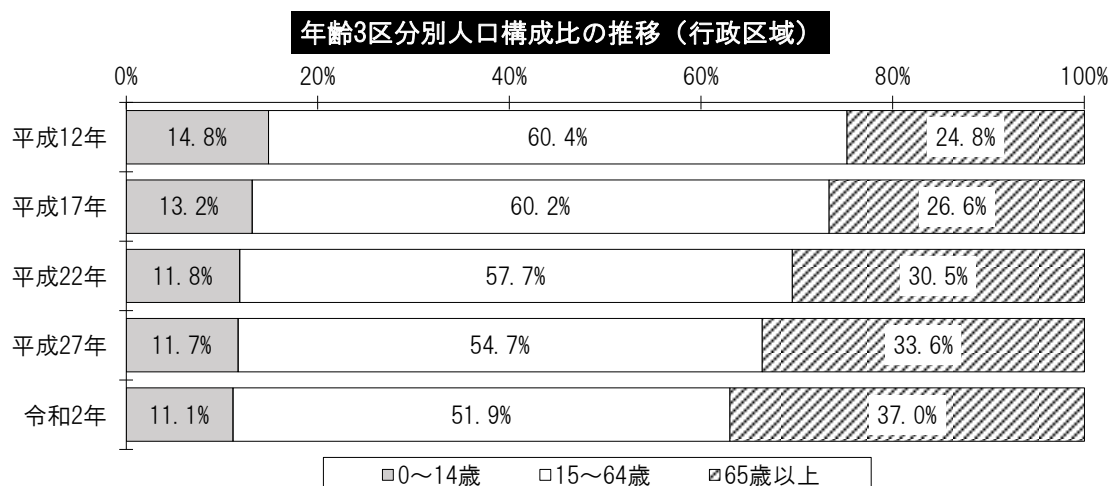
年齢3区分別人口を見ると、0～14歳および15～64歳の人口割合は一貫して減少している一方、65歳以上は増加し続けている。人口数では、0～14歳が1,617人から1,003人（38.0%減）、15～64歳が6,581人から4,671人（29.0%減）と減少しているのに対し、65歳以上は2,697人から3,329人へと増加（23.4%増）している。構成比では、15歳未満が14.8%から11.1%、15～64歳が60.4%から51.9%に減少する一方、65歳以上は24.8%から37.0%へと大きく増加している。

図表 3. C0101_年齢・性別人口（集計表）

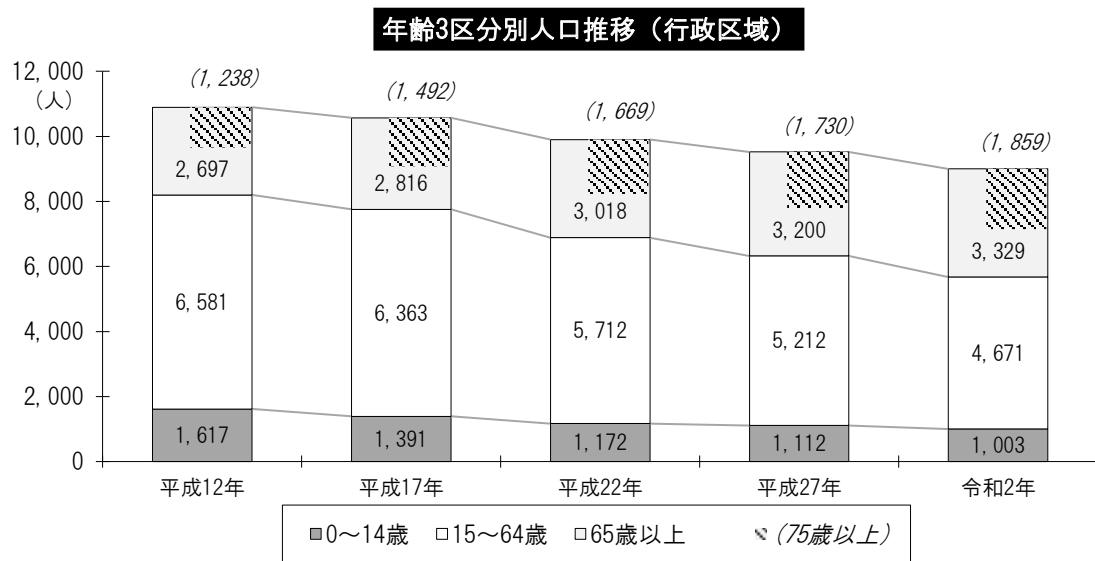
単位：人

	平成12年			平成17年			平成22年			平成27年			令和2年		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
0-4歳	481	254	227	378	187	191	328	170	158	332	163	169	265	157	108
5-9歳	516	255	261	477	245	232	380	194	186	382	201	181	354	169	185
10-14歳	620	313	307	536	271	265	464	242	222	398	200	198	384	205	179
15-19歳	552	273	279	527	261	266	457	226	231	393	210	183	344	179	165
20-24歳	576	301	275	510	240	270	386	182	204	305	147	158	274	145	129
25-29歳	635	309	326	603	310	293	459	239	220	403	190	213	332	165	167
30-34歳	588	296	292	631	321	310	528	269	259	426	226	200	386	202	184
35-39歳	568	297	271	576	287	289	557	282	275	524	270	254	412	216	196
40-44歳	680	336	344	583	303	280	551	277	274	605	306	299	539	284	255
45-49歳	743	382	361	670	331	339	582	305	277	557	287	270	598	298	300
50-54歳	824	427	397	737	376	361	664	325	339	582	307	275	545	274	271
55-59歳	742	356	386	800	414	386	729	376	353	682	336	346	567	297	270
60-64歳	673	327	346	726	343	383	799	409	390	735	379	356	674	335	339
65-69歳	721	334	387	644	320	324	730	350	380	777	388	389	728	369	359
70-74歳	738	337	401	680	299	381	619	303	316	693	317	376	742	362	380
75歳以上	1,238	469	769	1,492	574	918	1,669	634	1,035	1,730	674	1,056	1,859	734	1,125
不詳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	4	2	1	1	0
総数	10,895	5,266	5,629	10,570	5,082	5,488	9,902	4,783	5,119	9,530	4,605	4,925	9,004	4,392	4,612

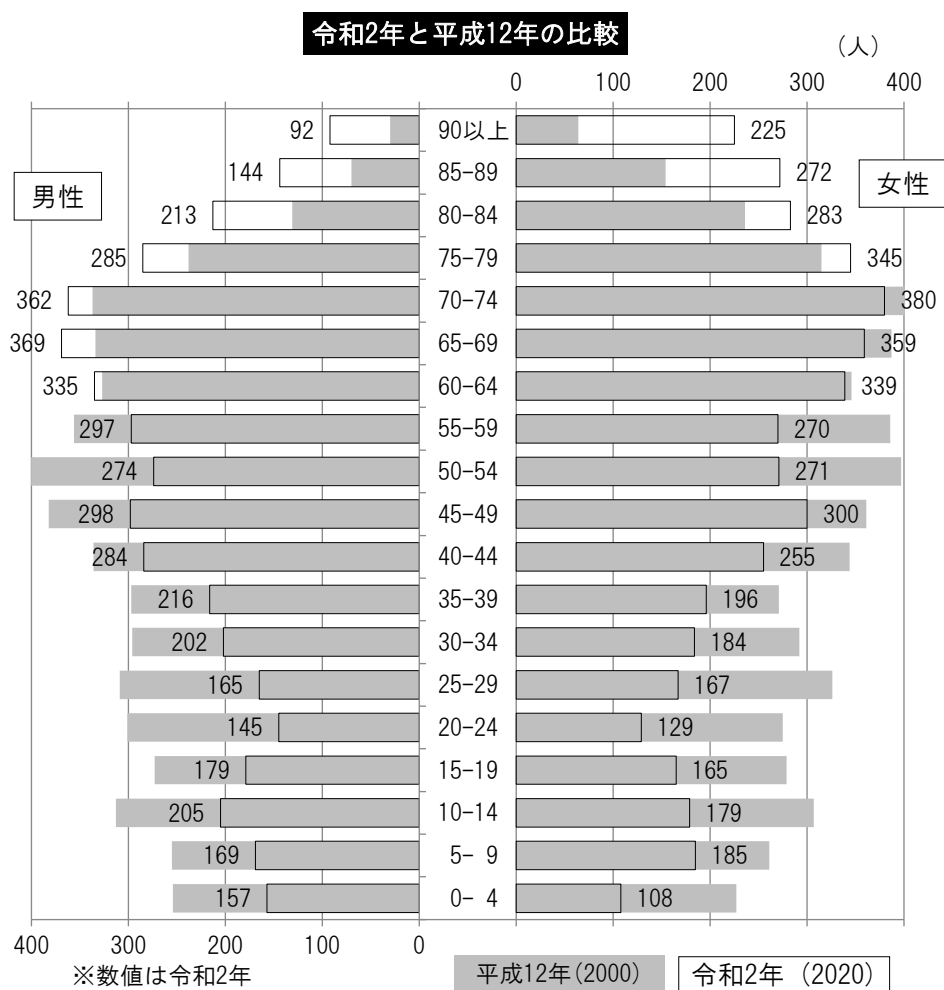
（平成12、17、22、27年、令和2年国勢調査）男女別・年齢階級（5歳階級）別人口をもとに作成）



図表 4. 年齢3区分別人口構成比の推移（行政区域）



図表 5. 年齢3区分別人口の推移（行政区）



図表 6. 5歳階級別性別人口（行政区）（令和2年と平成12年の比較）

C0103 将来人口

国立社会保障・人口問題研究所による飯島町の将来人口推計では、今後も人口減少が続くことが見込まれており、令和2年から30年後の令和32年にかけて、総人口は9,004人から5,734人へと減少し、36.3%の大幅な減少となる見通しである。

年齢3区分別に見ると、いずれの区分においても人口は減少し、特に15歳未満の年少人口および15～64歳の生産年齢人口は、令和2年と比較し令和32年にはそれぞれ52.8%減、47.1%減と大きな減少が見込まれていることから、将来的な労働力不足や地域経済活動の縮小が懸念される。

一方、65歳以上の人口減少は16.2%減、75歳以上は1.5%減にとどまり、高齢人口の割合が相対的に高い状態が続くことが想定される。

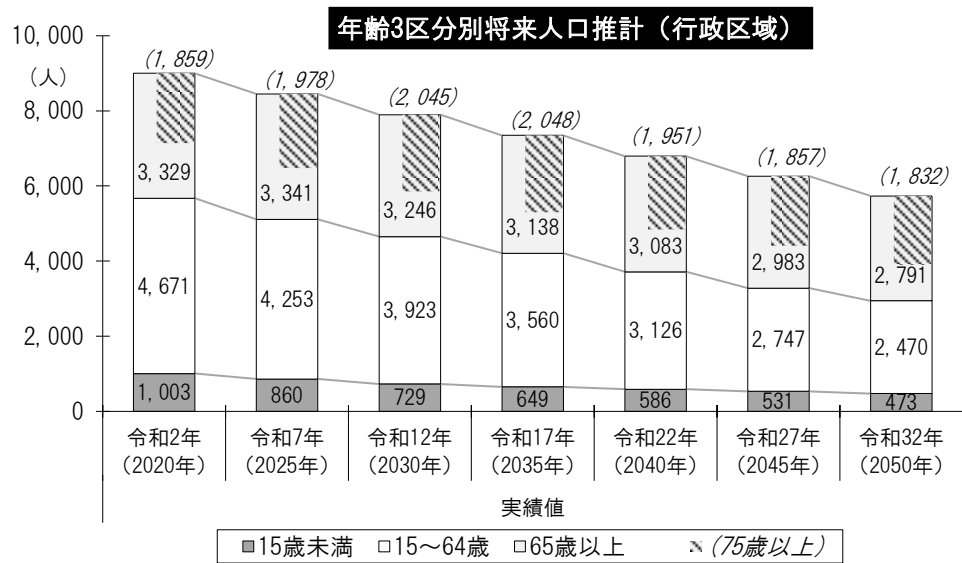
図表 7. 将来人口（集計表）

単位：人

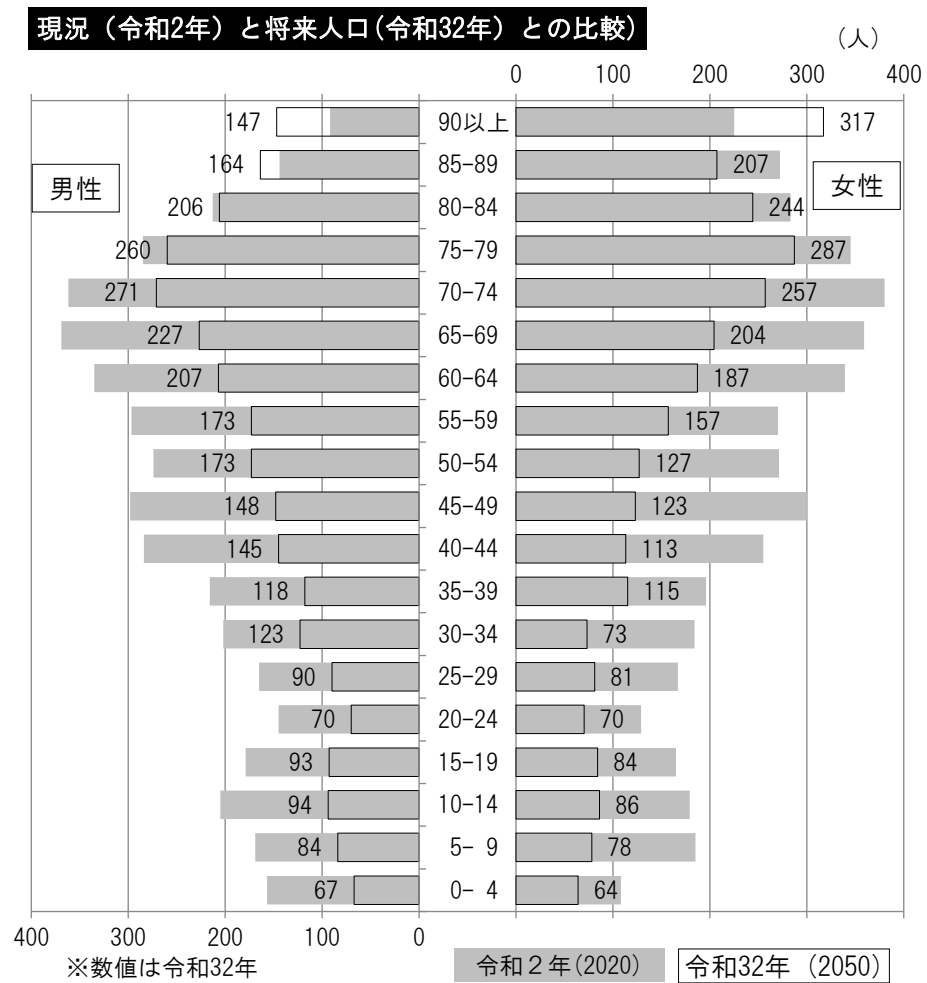
	令和2年（2020年）			令和7年（2025年）			令和12年（2030年）			令和17年（2035年）		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総数	9,004	4,392	4,612	8,454	4,150	4,304	7,898	3,894	4,004	7,347	3,630	3,717
0-4歳	265	157	108	222	114	108	203	104	99	187	96	91
5-9歳	354	169	185	282	168	114	240	124	116	220	114	106
10-14歳	384	205	179	356	171	185	286	171	115	242	126	116
15-19歳	344	179	165	329	177	152	304	148	156	244	147	97
20-24歳	274	145	129	253	125	128	241	124	117	224	103	121
25-29歳	332	165	167	301	166	135	275	143	132	263	142	121
30-34歳	386	202	184	319	167	152	291	168	123	265	144	121
35-39歳	412	216	196	373	194	179	310	160	150	283	161	122
40-44歳	539	284	255	422	223	199	383	201	182	319	166	153
45-49歳	598	298	300	541	286	255	426	227	199	387	205	182
50-54歳	545	274	271	599	297	302	541	285	256	428	227	201
55-59歳	567	297	270	548	276	272	602	299	303	544	287	257
60-64歳	674	335	339	568	296	272	550	276	274	603	298	305
65-69歳	728	369	359	665	327	338	562	291	271	546	272	274
70-74歳	742	362	380	698	348	350	639	308	331	544	277	267
75歳以上	1,859	734	1,125	1,978	815	1,163	2,045	865	1,180	2,048	865	1,183
15歳未満	1,003	531	472	860	453	407	729	399	330	649	336	313
15～64歳	4,671	2,395	2,276	4,253	2,207	2,046	3,923	2,031	1,892	3,560	1,880	1,680
65歳以上	3,329	1,465	1,864	3,341	1,490	1,851	3,246	1,464	1,782	3,138	1,414	1,724

	令和22年（2040年）			令和27年（2045年）			令和32年（2050年）		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総数	6,795	3,364	3,431	6,261	3,110	3,151	5,734	2,860	2,874
0-4歳	162	83	79	148	76	72	131	67	64
5-9歳	203	105	98	177	92	85	162	84	78
10-14歳	221	115	106	206	107	99	180	94	86
15-19歳	208	109	99	190	100	90	177	93	84
20-24歳	180	104	76	154	77	77	140	70	70
25-29歳	246	120	126	200	121	79	171	90	81
30-34歳	255	144	111	238	122	116	196	123	73
35-39歳	257	138	119	249	139	110	233	118	115
40-44歳	293	168	125	266	144	122	258	145	113
45-49歳	324	170	154	299	173	126	271	148	123
50-54歳	388	205	183	327	171	156	300	173	127
55-59歳	430	229	201	392	207	185	330	173	157
60-64歳	545	286	259	432	229	203	394	207	187
65-69歳	601	295	306	543	283	260	431	227	204
70-74歳	531	260	271	583	281	302	528	271	257
75歳以上	1,951	833	1,118	1,857	788	1,069	1,832	777	1,055
15歳未満	586	303	283	531	275	256	473	245	228
15～64歳	3,126	1,673	1,453	2,747	1,483	1,264	2,470	1,340	1,130
65歳以上	3,083	1,388	1,695	2,983	1,352	1,631	2,791	1,275	1,516

（将来の地域別男女5歳階級別人口（令和5年推計）〔国立社会保障・人口問題研究所〕年齢別男女別将来人口をもとに作成）
（令和2年の数値は国勢調査）



図表 8. 年齢3区分別将来人口推計（行政区域）



図表 9. 現況と将来人口との比較（令和2年：令和32年）

C0104 人口増減

行政区域における平成12年から令和2年までの人口動態を見ると、自然動態は一貫して減少傾向にあり、各年の出生数の変動により減少幅に差が生じているものの、全体として自然減が継続している。

社会動態は各年の変動が著しく、平成17年は転入者数が大幅に増加したことから、過去20年間に於いて唯一の人口増加となり、また、平成22年は転出者数の増加に加え、転入者数の伸び悩みに自然減が重なったことで、大幅な人口減少の年となっている。

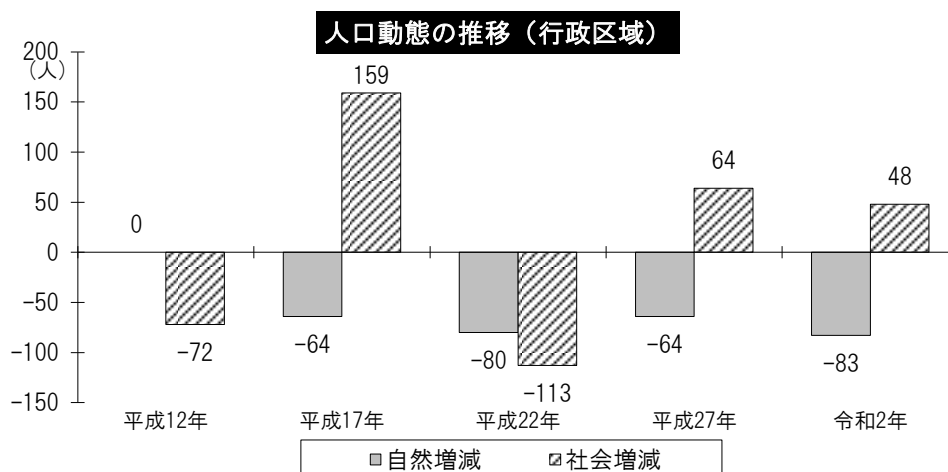
全般的に、平成27年以降は、転入者数が転出者数を上回る状況が続いており、社会増の傾向が定着しつつある。

図表 10. 人口増減（集計表）_（行政区域）

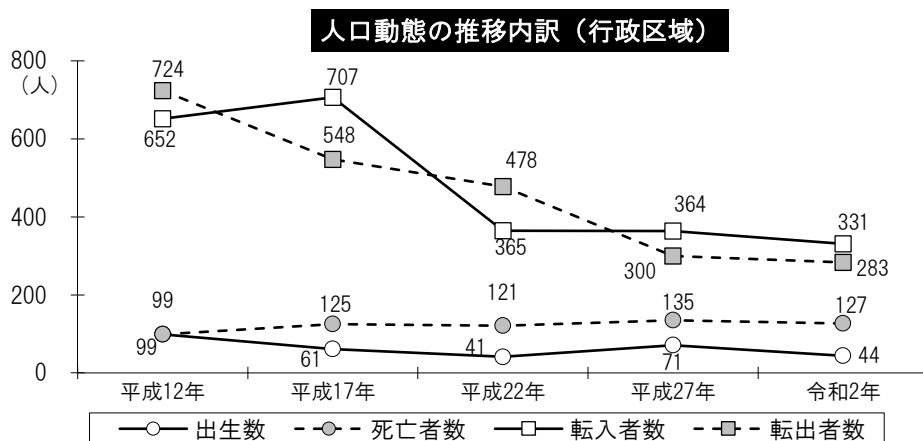
単位：人

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
自然増減	0	-64	-80	-64	-83
出生数	99	61	41	71	44
死亡者数	99	125	121	135	127
社会増減	-72	159	-113	64	48
転入者数	652	707	365	364	331
転出者数	724	548	478	300	283
（その他増減）	-4	-5	2	-5	-6
人口増減 計	-76	90	-191	-5	-41

（長野県の統計情報 毎月人口異動調査 市町村別異動状況をもとに作成）



図表 11. 人口動態の推移_（行政区域）



図表 12. 人口動態の推移内訳_（行政区域）

C0105 通勤・通学移動

平成12年から令和2年までの就業者による流出・流入人口を見ると、常住地・従業地ともに就業者数は一貫して減少傾向にある。一方で、流出率・流入率はいずれも増加傾向を示しており、令和2年には流出率47.5%、流入率44.2%となっている。

通学者数については、平成22年を除き、過去20年間にわたり減少が続いている。流出率はおおむね85%前後で推移しており、大きな変化は見られない。

令和2年の市町村別の流出入先を見ると、就業者の主な流出先は駒ヶ根市および本町北部に位置する伊那市、宮田村であり、流入先は駒ヶ根市と本町南部に位置する中川村、松川町となっている。また、通学者の主な流出先は伊那市、駒ヶ根市、飯田市の順となっている。

図表 13. C0105_通勤・通学移動（集計表）_<就業者>

年	常住地による 就業者数 (人)	流出		従業地による 就業者数 (人)	流入		従／常 就業者比率 (%)
		就業者数 (人)	流出率 (%)		就業者数 (人)	流入率 (%)	
平成12年	6,190	2,261	36.5	5,877	1,948	33.1	94.9
平成17年	6,118	2,474	40.4	5,661	2,017	35.6	92.5
平成22年	5,327	2,546	47.8	4,640	1,844	39.7	87.1
平成27年	5,237	2,444	46.7	4,793	1,997	41.7	91.5
令和2年	4,950	2,352	47.5	4,660	2,060	44.2	94.1

(平成12, 17, 22, 27年、令和2年国勢調査 常住地・従業地における就業者数をもとに作成)

図表 14. C0105_通勤・通学移動（集計表）流出・流入先人口推移 _<就業者>

年	流出先								
	流出率第1位			流出率第2位			流出率第3位		
	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)
平成12年	駒ヶ根市	1,078	17.4	伊那市	331	5.3	宮田村	155	2.5
平成17年	駒ヶ根市	1,153	18.8	伊那市	372	6.1	宮田村	196	3.2
平成22年	駒ヶ根市	1,199	22.5	伊那市	337	6.3	松川町	195	3.7
平成27年	駒ヶ根市	1,114	21.3	伊那市	350	6.7	飯田市	188	3.6
令和2年	駒ヶ根市	1,068	21.6	伊那市	290	5.9	松川町	201	4.1

年	流出先					
	流出率第4位			流出率第5位		
	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)
平成12年	中川村	150	2.4	飯田市	148	2.4
平成17年	飯田市	182	3.0	松川町	168	2.7
平成22年	飯田市	193	3.6	中川村	189	3.5
平成27年	松川町	183	3.5	中川村	182	3.5
令和2年	宮田村	185	3.7	飯田市	180	3.6

年	流入先								
	流入率第1位			流入率第2位			流入率第3位		
	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)
平成12年	駒ヶ根市	840	14.3	中川村	317	5.4	松川町	207	3.5
平成17年	駒ヶ根市	901	15.9	中川村	304	5.4	松川町	236	4.2
平成22年	駒ヶ根市	741	16.0	中川村	278	6.0	松川町	218	4.7
平成27年	駒ヶ根市	806	16.8	中川村	258	5.4	松川町	228	4.8
令和2年	駒ヶ根市	854	18.3	中川村	248	5.3	松川町	240	5.2

年	流入先					
	流入率第4位			流入率第5位		
	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)
平成12年	伊那市	195	3.3	宮田村	122	2.1
平成17年	伊那市	166	2.9	宮田村	114	2.0
平成22年	伊那市	182	3.9	宮田村	122	2.6
平成27年	伊那市	208	4.3	宮田村	140	2.9
令和2年	伊那市	193	4.1	宮田村	145	3.1

(平成12, 17, 22, 27年、令和2年国勢調査 常住地・従業地における就業者数をもとに作成)

図表 15. C0105_通勤・通学移動（集計表）_〈通学者〉

年	常住地による 通学者数 (人)	流出		従業地による 通学者数 (人)	流入		従／常 通学者比率 (%)
		通学者数 (人)	流出率 (%)		通学者数 (人)	流入率 (%)	
平成12年	466	389	83. 5	79	2	2. 5	17. 0
平成17年	424	370	87. 3	56	2	3. 6	13. 2
平成22年	449	386	86. 0	63	0	0. 0	14. 0
平成27年	374	315	84. 2	62	2	3. 2	16. 6
令和2年	315	269	85. 4	54	0	0. 0	17. 1

(平成 12, 17, 22, 27 年、令和 2 年国勢調査 常住地・従業地における通学者数をもとに作成)

図表 16. C0105_通勤・通学移動（集計表）流出・流入先人口推移_〈通学者〉

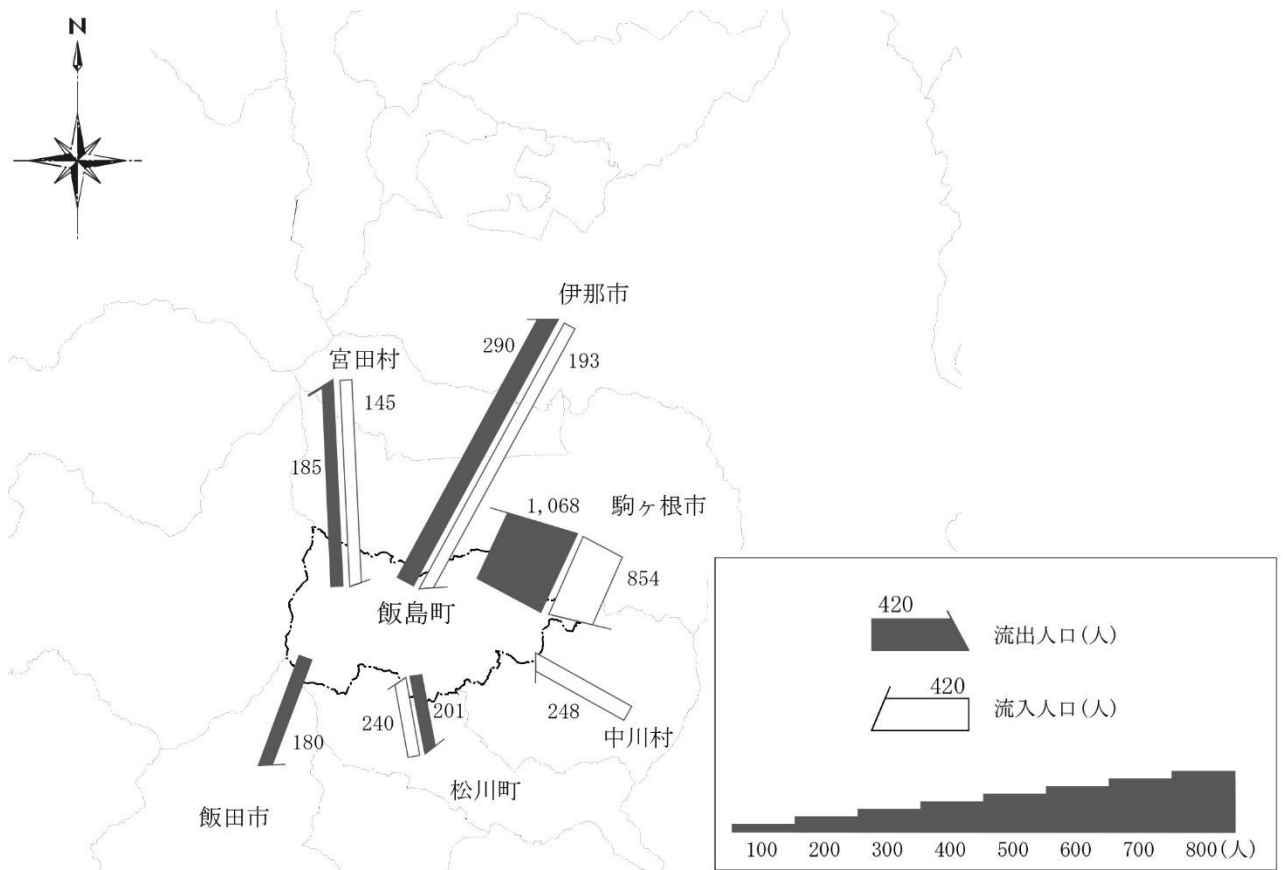
年	流出先								
	流出率第1位			流出率第2位			流出率第3位		
	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)
平成12年	伊那市	110	23. 6	駒ヶ根市	88	18. 9	松川町	66	14. 2
平成17年	伊那市	120	28. 3	駒ヶ根市	102	24. 1	飯田市	48	11. 3
平成22年	伊那市	103	22. 9	駒ヶ根市	89	19. 8	飯田市	59	13. 1
平成27年	伊那市	103	27. 5	駒ヶ根市	80	21. 4	飯田市	30	8. 0
令和2年	伊那市	98	31. 1	駒ヶ根市	63	20. 0	飯田市	32	10. 2

年	流出先					
	流出率第4位			流出率第5位		
	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)
平成12年	飯田市	56	12. 0	箕輪町	19	4. 1
平成17年	松川町	36	8. 5	松本市	22	5. 2
平成22年	松川町	24	5. 3	松本市	24	5. 3
平成27年	松川町	25	6. 7	松本市	17	4. 5
令和2年	箕輪町	20	6. 3	南箕輪村	11	3. 5

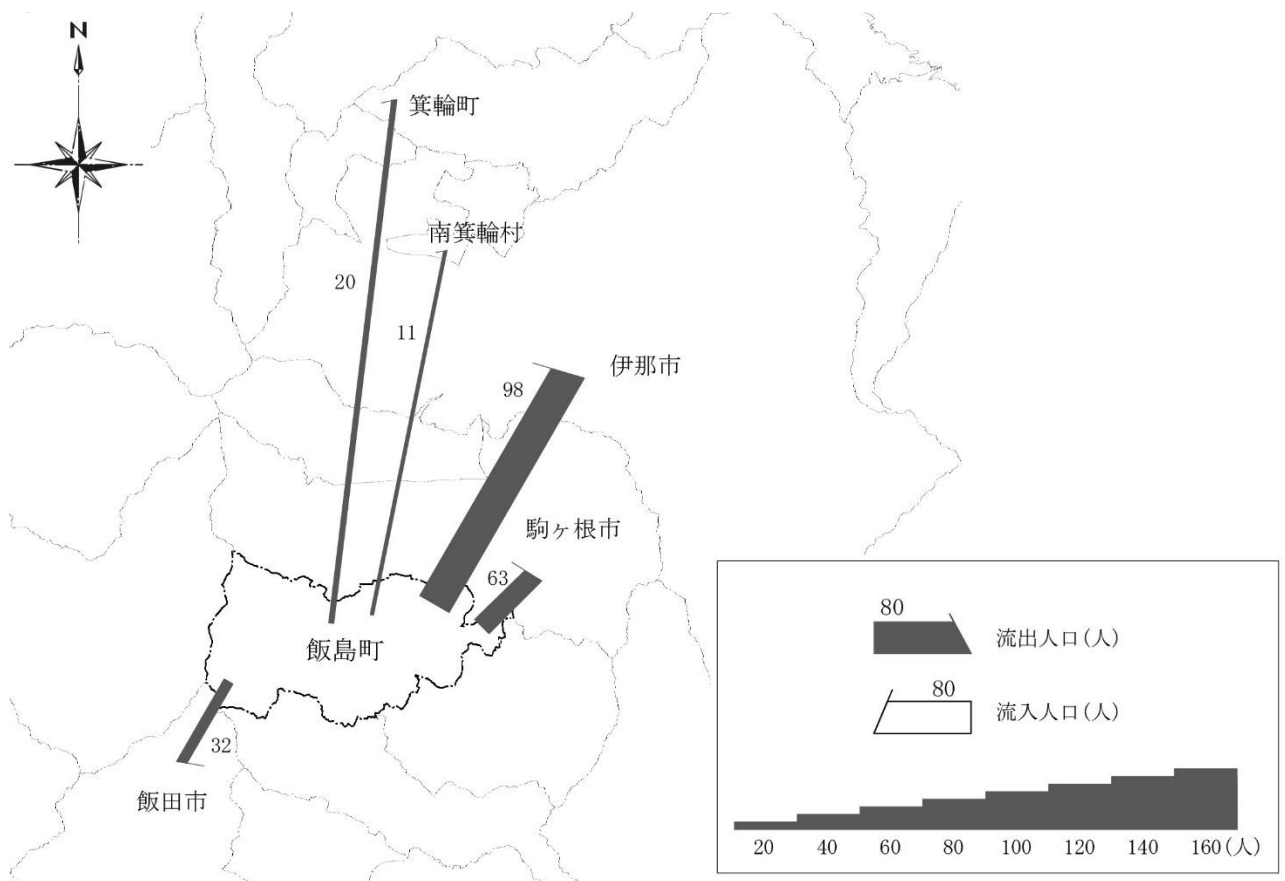
年	流入先								
	流入率第1位			流入率第2位			流入率第3位		
	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)
平成12年	駒ヶ根市	1	1. 3	南箕輪村	1	1. 3	－	－	－
平成17年	中川村	1	1. 8	－	－	－	－	－	－
平成22年	－	－	－	－	－	－	－	－	－
平成27年	駒ヶ根市	1	1. 6	中川村	1	1. 6	－	－	－
令和2年	－	－	－	－	－	－	－	－	－

年	流入先					
	流入率第4位			流入率第5位		
	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)
平成12年	－	－	－	－	－	－
平成17年	－	－	－	－	－	－
平成22年	－	－	－	－	－	－
平成27年	－	－	－	－	－	－
令和2年	－	－	－	－	－	－

(平成 12, 17, 22, 27 年、令和 2 年国勢調査 常住地・従業地における通学者数をもとに作成)



図表 17. 流出・流入人口（令和 2 年）_＜就業者＞



図表 18. 流出・流入人口（令和 2 年）_＜通学者＞